

すべての動物と仲良く



1年チームE

生山隼槻 河野天星

大成輝 濱本悠佑

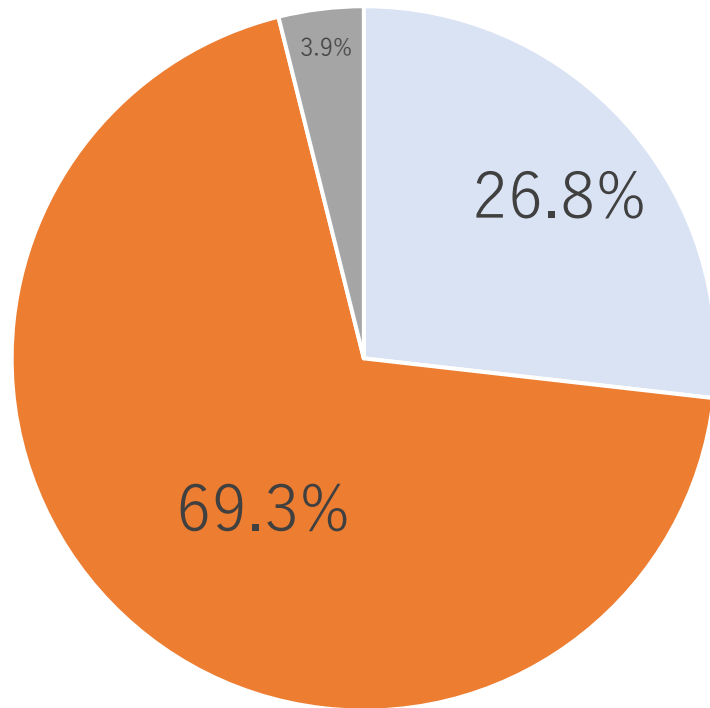
目的

飼育が不可能とされている動物の飼育を可能にすること

飼育の難易度が高い動物の飼育を容易にすること

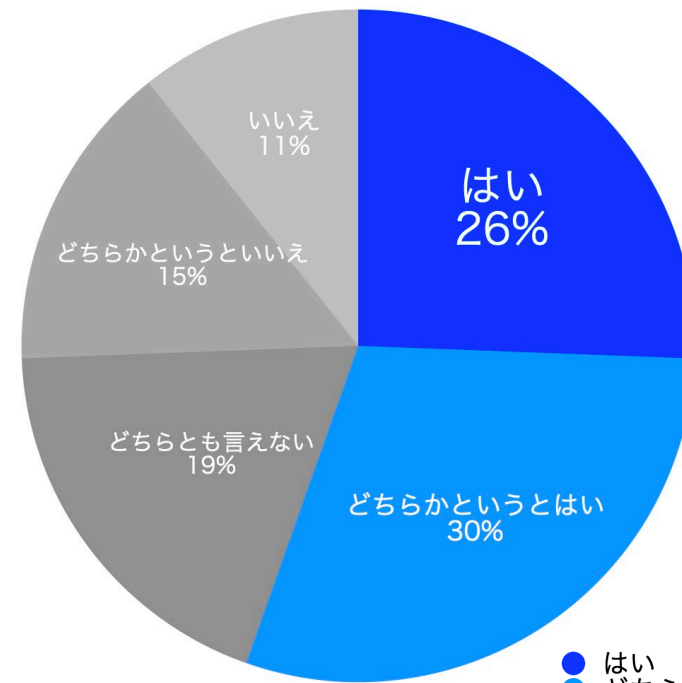
現状

ペットの飼育状況



■ 飼っている人 ■ 飼っていない人 ■ 不明

ペットを飼ってから知識不足だと感じたことはあるか？



● はい
● どちらかというとはい
● どちらとも言えない
● どちらかというといいえ
● いいえ

【調査概要：2020年4月以降にペットを飼い始めた人の意識調査】

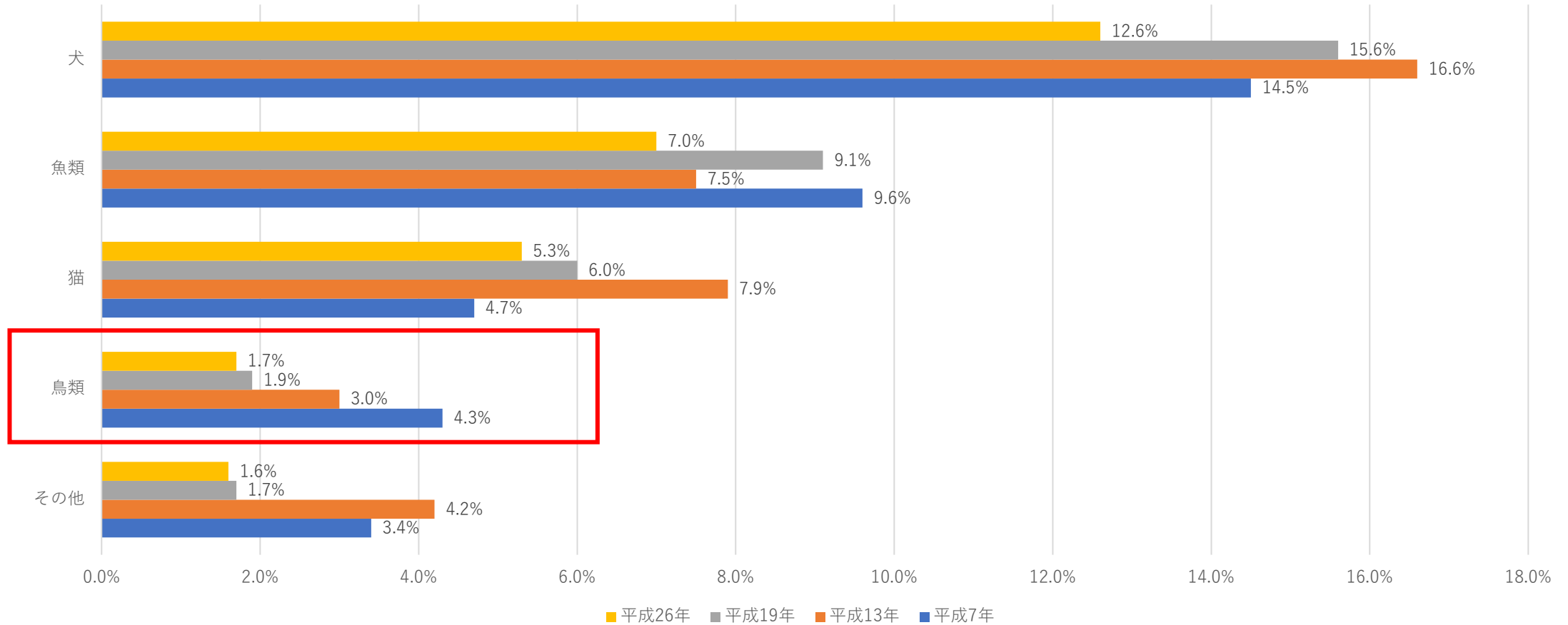
■ 調査日：2021年1月19日～2020年1月23日

■ 調査方法：インターネット調査

■ 調査人数：121名

現状

福岡のペット飼育率



グラフ引用元
<https://www.wannyan.city.fukuoka.lg.jp/yokanet/files/uploads/ペットに関する市民意識調査報告書.pdf>

現状分析

1. 体が小さな小鳥は、野生の世界では捕食される側の弱いどうぶつなので、ぎりぎりまで病気を隠し、元気を装うといわれています。

2. 一旦病気を発症すると、進行が早いこともあり、早期発見、早期治療が生死を分けることになります

ターゲット層

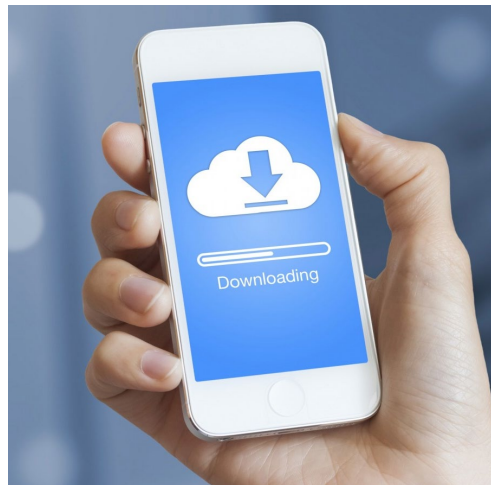
九州・福岡の鳥好き



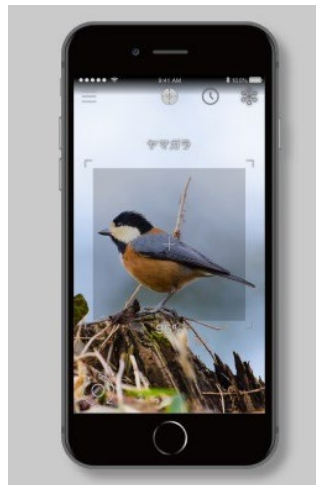
新しく鳥を飼い始めたい人



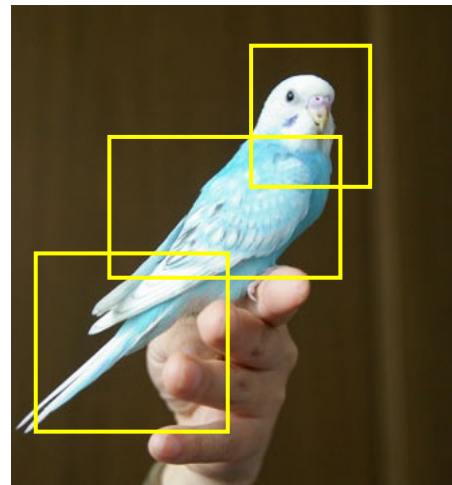
何をするのか



1. 鳥の状態検知のアプリをインストール



2. 飼っている鳥をカメラで撮影



3. 生体認証により鳥の健康状態を表示する



4. 体調に異常がある場合、適切な処置方法を表示する

実現計画

実現年数：1年

仕様確認

プロトタイプ開発

テスト

デバッグ

納品

↓

専門家と協力し、仕様確認を進めていく



↓

鳥を飼っている人にアプリのフィードバックをもらう



課題

1. 対象の動物の飼育率が低いため、アプリの需要が低くなる可能性が高い。



2. 広く動物の知識がある専門家の協力が必須である。



まとめ

AIに他の動物のデータを学習させると鳥以外にも応用できる



すべての動物の飼育難易度が下がる



すべての動物と仲良くなれる!!



ご清聴ありがとうございました

